

宇宙・太陽・地球・人類をシームレスにつなぐ AMS融合研究の新展開

2026
3.27 金 13:00
18:00

名古屋大学理学部南館
坂田・平田ホール

参加費無料

主催:名古屋大学宇宙地球環境研究所、日本AMS研究協会

13:00 - 開会挨拶 名古屋大学宇宙地球環境研究所 南 雅代

13:10 - 短寿命放射性核種による年代測定から明らかにする
小惑星リュウグウの形成と進化

茨城大学理学部地球環境科学コース 藤谷 渉

13:40 - AMSを用いた過去の太陽活動研究の進展と展望

名古屋大学宇宙地球環境研究所 三宅 芙沙

14:10 - ^{14}C と有機化学成分で読み解く大気エアロゾルの発生起源

長崎大学総合生産科学域(環境科学系) 池盛 文数

14:40 - 南極の氷床に残されている ^{10}Be 記録への気候変動の影響

名古屋大学宇宙地球環境研究所 栗田 直幸

15:10 - ICP-MSとAMSを用いた環境中ウラン汚染の起源推定

学習院大学理学部 大野 剛

15:40 - 休憩

15:50 - 歴史文献による太陽活動復元と年輪・氷床コアデータとの比較

名古屋大学宇宙地球環境研究所 早川 尚志

16:20 - 新たな ^{14}C 研究から描くこれからの考古学編年

東京大学総合研究博物館 大森 貴之

16:50 - 光技術とAMSで拓く同位体科学の新展開

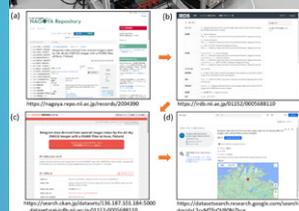
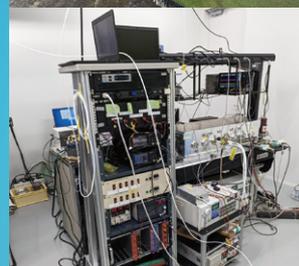
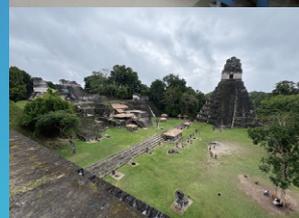
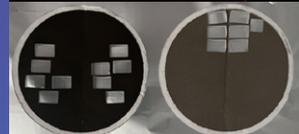
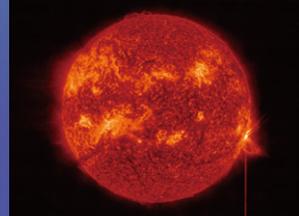
名古屋大学大学院工学研究科 富田 英生

17:20 - 研究データの可視化・検索性の向上を目指した
メタデータ変換システムの開発と展開

名古屋市立大学データサイエンス研究科 能勢 正仁

17:50 - 閉会の辞

PROGRAM



名古屋大学宇宙地球環境研究所に設置されている
タンデロン加速器質量分析装置(オランダHVEE社製, 3MV)